岐阜女子大学の“高い就職率を目指す教育実践”

岐阜女子大学の教育理念に基づいた教育目標は

「教養ある専門性をもつ職業人養成を重視した教育を施す」です。

この教育目標を実現するため、各学科・専攻・専修等で教育課程（コアカリキュラム、学習目標）を構成し、以下のような人材の養成を目指しています。

【1】カリキュラムをもとに確かな学士力を身につける
【2】各自に適した専門性を身につけた職業人を育成する
【3】高い就職率で地域社会に貢献できる
【4】教養を身につけ思慮深い行動ができる

本学では平成 21 年度に、文部科学省の大学教育・学生支援推進事業

“社会ニーズに対応した学士力と高い就職率・定着率を目指す教育”

が採択され、先の目標をより具現化し実施することにより

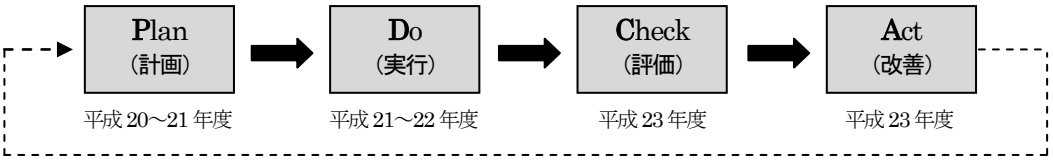
・平成22年度就職率97%

・地元就職者率80%(過去3年間)　の成果を得ることができました。

「カリキュラム・授業等の“計画・実行・評価・改善（PDCA サイクル）”の実践」

PDCA サイクル※（Plan＝計画、Do＝実行、Check＝評価、Act＝改善）をするため、各学科・専攻・専修等の教員が中心となり実践しました。

※ＰＤＣＡサイクル



平成 24 年度より第 2 周期目開始

平成 20 年度（Plan＝計画）

①コアカリキュラムの作成

各学科・専攻・専修等で学習すべき、主要な学習内容をもとにコアカリキュラムを構成しました。

②履修主要科目と関連科目の構成

コアカリキュラムを中心に履修主要科目の相互関係を考え、何を主として履修するのか、またその学習の支援、さらにはその主要科目を発展させる科目について検討しました。

※平成 21 年度より、文部科学省の大学教育・学生支援推進事業“社会ニーズに対応した学士力と高い就職率・定着率を目指す教育”として実践しています。

平成 21 年度（Plan＝計画、Do＝実行）

③各主要科目の学習目標の設定と目標に準拠した評価の作成（目標と評価）
コアカリキュラムに対応した履修ができるように目標と評価を作成しました。

④入学前の事前学習テキストの作成刊行・提供・支援
入学決定者に対し、入学前に高等学校の復習や補完学習支援を行い実践しました。

⑤入学後の基礎学習資料の作成刊行・提供・支援
高等学校と大学の学習を接続させるための補完教材を作成しました。

平成 22 年度（Do＝実行）

⑥各専門の基礎学習資料の作成刊行・提供・支援
専門の基礎、確かな力をつけるため補完学習資料を作成し、提供・指導を行いました。

①～⑥を実践することにより一つの学士力育成の体系化が進められました。

平成 23 年度（各自の評価と資格の選択）

これまでの実績に基づき、本学の重要教育課題である、各学生が自分の特性に適した資格を選択し取得するための指導をしています。

⑦資格取得のためのガイドブックの作成刊行・提供・支援
自分に適した資格の選択の支援となるガイドを作成し提供しました。

⑧主要資格の学習課題（問題）等の作成刊行・提供・支援
選択した主要な資格について、学習課題（テキスト）を作成提供し、学習の支援を進めました。

Check＝評価・Act＝改善

授業評価について、立命館大学の林徳治先生を始め多くの方々のご協力で、評価項目を新しく改善し、マークシート方式で実施し、授業改善の資料として利用が始まりました。

平成 20 年度より開始した取組みは、このような一つのサイクルになりました。平成 23 年度は、これら一連の計画・実践・評価・改善の視点をより明確にし、第一周期目の PDCA サイクルを終了し、改善点をもとに、新しく計画（コアカリキュラムを検討し）から始まろうとしています。

平成 24 年度

PDCA サイクルは、第二周期に入ります。今回、第一周期からの改善点をもとにコアカリキュラムを改善して、各コースのカリキュラム、教科の目標、評価、入学前指導テキスト、基礎テキストから資格指導まで、再検討し、本学の学生が確かな力をつけ就職し、人生を生き抜く力をつけられるよう指導します。

岐阜女子大学は、この PDCA サイクルを、大学をよりよくするための評価の一つであると考えています。